

令和5年度の教育活動等に対する学校評価書

令和6年3月22日

学校法人 大里東学園 大里東幼稚園長 望月 雅世

学校法人 大里東学園 大里東幼稚園学校関係者評価委員会

1 本園の教育目標

教育目標「たくましい子」のもと、幼児の特性を踏まえより良い教育環境により幼児の発達を助長することを目的としている。特に心情・意欲・態度づくりに心掛け、心身共に健康で、たくましい子に育つよう、一人一人の良さを見つけ認め伸ばす幼児教育を目指している。

2 本年度の重点目標(本年度、重点的に取り組む目標・計画)

- “幼稚園教育の大切さ”を守り、「友達や先生と“わくわく”を共有し、生活や遊びをわくわく感でいっぱいにして～多様なかわりや体験を積み重ね、繋がる力、挑戦する力、夢中になる力、発信する力を育てる～」という重点目標に向かって、“もの・こと・ひと”とかかわることの意味を見つめ直し、子どもの学びについての理解を深め保育にあたる。
- 保育の中での発信に力をいれる。
- 家庭や地域・学校との連携をはかりながら保育を発信していく。

3 評価項目に対する自己評価結果と学校関係者評価結果

具体的な目標	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価	園の取組状況・成果	評価	意見
多様なかわりや体験を積み重ね、繋がる力や挑戦する力、夢中になる力、発信する力を育てる	・クラスの幼児が重点目標に向けて取り組み充実感を味わった	A	・テーマやキーワード、実体験重視を意識したことで、子どもたちが環境に興味を持ち、主体的にかかわりながら遊び、伝え合ったり刺激し合ったりし深めていた。今後は、日常の何気ない環境を大事にし、興味や関心がもっと引き出せるよう振り返りをし、質を高めたい。 ・教材研究や話し合いに時間を費やせた時には、より遊びを深められた。早めの計画が余裕を生み、やる気にもつながった。ただ全てにおいてそうではなかったため、余裕が持てるような工夫が必要だと思われる。教材研究を大切にし、	A	・保育に真摯に取り組む姿は高く評価している。今年度の良さを生かして今後も励んでほしい。

			<p>教師間で刺激し合える環境を作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なかかわりが求められた。 <p>前半はうまくいかなかったが積極的に情報共有や声の掛け合いをしたことで連携が取れるようになった。</p>		
	<p>・園全体で重点目標に向けて取り組み充実感を味わった</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍明けを意識し、積極的に行事を計画することに心掛けた。それにより新しいことへのチャレンジにもつながり行事も充実した。 ・実体験を大切に、ワクワク感のある環境を整えた。まだまだ広げられると考えられるので次年度の課題としたい。 ・一年を通じたテーマがあることと「わくわく」をキーワードとしたことやマップやワークを取り入れたことでイメージの共有がしやすく、意見交換もしやすかった。教師間の同僚性にもつながったと思われる。 ・多様性について考えたり、育ちを話し合ったりするなど園内での連携は深められたが、日々の保育に追われてしまい、心に余裕が持てなかった点は課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい行事や楽しい行事が行われ、非常に望ましく思う。工夫・努力されていることがわかる。 ・コロナ禍で経験できなかったことや足りてないことは今後、積極的に取り入れてほしい。
	<p>・情報ボードの活用をするなど、発信する環境を積極的に整えた</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが情報ボードに関心を持ち、情報を発信するように心がけ、周知するようにもした。子どもがずいぶんと興味を持っていたのが発見であった。これにより、子どもたちが自ら進めようとしたり意欲的になったりしていた。 ・クラスによっては、情報ボードを活用しにくい部分もあったので、次年度は、場所や箇所等の改 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら工夫して取り組んでいることを評価する。引き続き行ってほしい。

			善をしていく。		
幼稚園での学びの発信、保育を語る力を身に付ける	・子どもの良さや学びを記録し、その記録を基に育ちを伝えた	B	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスだよりや園だより、HP、みつけたことなどの今まで続けてきた発信の良さは生かしながら、園内ではドキュメンテーションにも取り組んだ。 ・記録の仕方については、教師個々の工夫により内容と時間についても改善されつつある。常に会話ができるような環境を作り、子どもの記録を共有しやすくした。 ・登降園や行事等の機会に一人一人の様子やエピソードを担当以外の教師も伝えていった。保育を語る上での重要な“育ち”については自信を持っていないため、これについては幼児理解を深めることと伝えるスキルの向上について工夫したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・おたよりなどの内容から、若い先生の努力や子どもの育ちも保護者に伝わっている。 ・言葉での伝え合いは訓練や経験が必要だろうが、上手や下手は関係ないので積極的に伝えてほしい。
	・子どもの学びについて研修を深め、教師集団の資質向上に努めた	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園内でのドキュメンテーションの取り組みを研修として活用した。体験の質を考えるために役立った。 ・研修会には意欲的に多数参加した。自分の保育と照らし合わせて自ら学びを深めようとしていた。園内研修は工夫の余地があるので可視化をしたり研究の時間を確保したりして方向性を共有できるように工夫したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を有効活用するための工夫が必要だろう。
幼稚園と家庭・地域の連携と安全	・子どもを中心に考えられるように工夫し、家庭を支えた	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍明けは、教育的意義のある園行事を親も楽しめる形で積極的に行い、幼児教育の大切さを体感できるように心がけた。これが園の教育の理解へと繋がっていると思われる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園が保護者の安心できる場所となっている。父母の会からの声にもあるが、「新しい行事や楽しい行事がたくさん行われ、保

				<p>護者も楽しむことができた」とは非常に望ましい。工夫や努力されていることが保護者にしっかり伝わっている。</p>
	<p>・地域と繋がるように工夫した</p>	A	<p>・コロナ禍明け、“誰もが来やすい幼稚園を”心掛けて行事を計画した。少しずつ広がっているが地域までには広がりきれてはいない。次年度は、HP や回覧板を使いもっと広げていきたい。</p> <p>・自治会や学校との交流が増えたことで、園への関心、理解が見られ嬉しい限りである。園児を連れていき、学校の環境を利用させてもらうこともできた。引き続き地道にかかわりを作っていく。</p>	A <p>・卒園生やその親も園のことを常に気にかけている。皆、園のことが大好きである。次年度もぜひ行事を計画してほしい。</p> <p>・来年度は地域とより繋がりがもてたらと期待している。“安全”についても考えてほしい。</p>

※評価結果の表示方法

A	十分に成果があった
B	成果があった
C	少し成果があった
D	成果がなかった

4 次年度に取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
魅力的な環境を構成し、遊びを生み出したり繰り返し広げたりする	・五感をフル活用できる魅力的な環境を構成する。・子どもの遊びを見取り、環境の再構成をし、遊びを繰り返し広げていけるよう振り返りを大事にする・発信したことをさらに広げる工夫をする
五感をフル活用しながら、同僚性を高める	・可視化し興味や関心を広げる・時間を作る工夫、使い方の工夫をする・教師自身も健康に心掛け、声を掛け合い、話し合いの風土づくりをする・研修に積極的に参加し、保育力を深める
家庭・地域との連携と安全	・コロナ禍前の状況に戻していく・園児が地域に出ていく機会を持つ・地域行事に参加する・学校や地域の環境を大いに利用する・安全への意識を高めるべく研修に参加する

5 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

以上学校関係者評価結果の報告を申し上げます。

大里東幼稚園学校関係者評価委員会